HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	雑報
Citation	北大法学論集, 17(4), 182-184
Issue Date	1967-03-28
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/16087
Type	bulletin (other)
File Information	17(4)_p182-184.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

雑　報

北海道大学法学部法学会記事

（昭和四二年二月～昭和四二年三月）

九、二月二四日（金）午後一時三〇分―四時

○「いわゆる結婚退職制違憲判決をめぐって」

報告者　佐保雅子

出席者　一五名

東京地裁判決（昭和四一年一二月二〇日）、いわゆる「結婚退職制違憲判決」をめぐって討論がなされた。この判決の投げかけた問題は、周知のように、重大である。この判決に関しては、たんに実定法（憲法、民法、労働法）の解釈論のレベルでのみならず、そもそも、そのような制度を生み出すに至っている背景（女性観、結婚観、年功序列型雇傭関係など）が興味をひく。この判決が正面からこの種の問題にとりくみ、思索を重ねたことは大いに買われるべきであり、その到達した結論（結婚したら退職するという趣旨の契約は公序に反して無効）も妥当であるというのが出席者多数の意見のようであった。女子の労働者にはとかく「プロ意識」が欠けるところが目立つ、とは一般にいえるとしても、およそ一律に結婚を条件として退職させようとすること、結婚の自由を放棄することを法的にも強行することは、やはり、公序に反すると断ぜざるをえまい。この訴訟の最終的結末、実際界に及ぼす影響を知りたいものである。

かりにこの判決の見解が支配的となり、実際界にもそれが及ぶことになったとしても、女性にとって喜ぶべきことだろうか。その行きつくところ、責任のより重い地位を与えられ、よわねをはくことなくプロに徹して仕事をすることを要求されることになるとすれば―これこそ真に歓迎すべきことであろう―女性たるもののうち幾人が耐えられるであろうか。いいことばかりはないものである。

一〇、三月二七日（金）午後二時―五時

○「フランス法哲学界の最近の動向」

報告者　深瀬忠一

出席者　一五名

フランスにおいては法哲学は盛んではない、といわれてきたが、一九六〇年代に至って、フランスの法哲学界は活気を呈してきた。なにゆえに、そのような現象が生じたのか、ということもむろんのこと、当のフランス法哲学界の状況じたい、われわれの興味をひくところである。今回は、現代フランス法哲学の状況について報告者深瀬教授の克明な紹介が行なわれた。現代フランスの法哲学には、さまざまな傾向が現われている。そのうち顕著なものとして、現象学、実存主義、マルキシズム、がある。認識方法の問題から、国家観、世界観の問題に至るまで、それぞれの流れが盛花を咲かせてお

り、それぞれが法とは何か、法・国家の本質は何かを追求し、相互批判を行なっている。分析哲学の傾向も存在するけれども、前記の傾向に比べると、さほど著しいものとはいえない。

「現象学」あるいは「実存主義」が法哲学とどのように結びつくのか、これらの法哲学が法実証主義に対してどのように共同戦線を張るのか、あるいは、マルキシズムの立場に立つ法哲学が、これらの立場に対してどのように自己主張をするのか。法学の科学性という問題についても論じられてはいるが、この問題に関する限りは、特に顕著な議論は見当らないようである。全般を通じて、例によって哲学用語が難解なことに変わりはなかった。この種の紹介が有益なことはいうまでもないが、欲をいえば、他の国々の法哲学の状況、わが国の状況にも及ぶなら、さらに興味深いものとなったであろう。それはともかく、報告者の精力的な精進には敬意を表したい。

研究会後、恒例のとおり、総会ひきつづいて懇親会が開催された。総会では、幹事提出の昭和四一年度の会計決算報告が承認された。懇親会は、約二時間（午後八時終了）、盛会のうちに幕を閉じた。

北海道大学法学部公法研究会記事

（昭和四二年二月～昭和四二年三月）

一七、二月　三日（金）判例研究　千葉（瑞）
○判例時報四五四号　三六頁
○判例時報四五四号　三九頁　今村
一八、二月一〇日（金）判例研究
○判例時報四五五号　二七頁　千葉（卓）
○判例時報四五五号　三六頁　笹川
○判例時報四五六号　三頁　遠藤
一九、二月一七日（金）判例研究
○判例時報四五六号　二七頁　秋山
○判例時報四五七号　二六頁　熊本
二〇、三月　三日（金）判例研究
○判例時報四五七号　三一頁　栃内
○判例時報四五七号　三四頁　浜
○判例時報四五八号　二六頁　古川

北海道大学法学部刑事法研究会記事

（昭和四二年二月～昭和四二年三月）

九、二月一八日（土）判例研究
○高裁刑集一八巻五号　四九一頁　札幌家裁　山田
一〇、三月一八日（土）研究報告
○承継的共同正犯の成否　札幌地裁　安斉

北海道大学法学部政治学研究会記事

（昭和四二年二月～昭和四二年三月）

一、読書会（毎月二回輪番制）

○ステュアート・ヒューズ著　生松　敬三　訳「意識と社会」

二、二月一七日（金）研究報告

○政治的態度の測定　阿部

三、三月一一日（土）

○矢田俊隆著「近代中央の自由と民族」をめぐって

北海道大学法学部民事法研究会記事

（昭和四二年二月～昭和四二年三月）

○一八、二月　三日（金）最高裁判所判例研究

○民集一九巻　九号　二一七八頁　中川

○民集一九巻　三号　七六八頁　見沢

○民集一九巻　九号　二一〇一頁　松田

○一九、二月一七日（金）

研究報告

○物資統制法規違反契約と民法上の無効　川井

最高裁判所判例研究

○民集一九巻　九号　二三〇六頁　神田

二〇、三月　九日（木）判例研究

○最高民集一九巻八号二〇一九頁

最高民集二〇巻一号　六五頁　石川

○労働民集一五巻三号　五五二頁　佐保